

高架下の森

高架下の森を抜けたその先には、梅田の街が広がる。

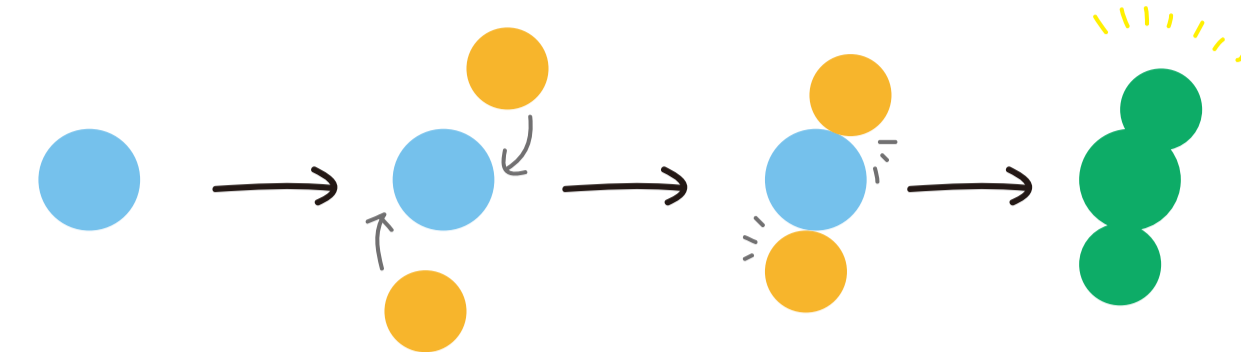


『高架下を回遊する』

変化する眺めを楽しむことを目的とし、『中心とはずれ』、『表と裏』という意味がある回遊のように、どんどん奥へ奥へ行く。閑散とした高架下を都会と繋ぐ道に変え、梅田からも人が訪れやすくすることで、街に人が増え、今までの中津駅の高架下の不気味なイメージをなくす。ルートを決めずに自由に移動し、本来の阪急中津駅の高架下特有の迷路のような雰囲気をあえて残した高架下を回遊する。

古いものが新しいものを取り込み、年月をかけて、新しいものへと入れ替わって行く。ここで言う、『古い“もの”』の“もの”とは、“人”を指す。新しいものが取り入れつつも、今あるものを生かしていく。

diagram



古いものが新しいものを取り込み、やがて時間をかけて新しいものに生まれ変わる。

計画地

大阪府大阪市北区中津三丁目

阪急中津駅 高架下

阪急梅田駅から一駅離れた駅にもかかわらず、中津駅高架下はまるで見捨てられたかのような、閑散とした光景が広がっている。昼間でも高架下は、不気味で近寄りたく、暗い。夜になると、その暗さは一層深みを増す。その不気味さは、まるで異世界に迷い込んでしまったかのような。

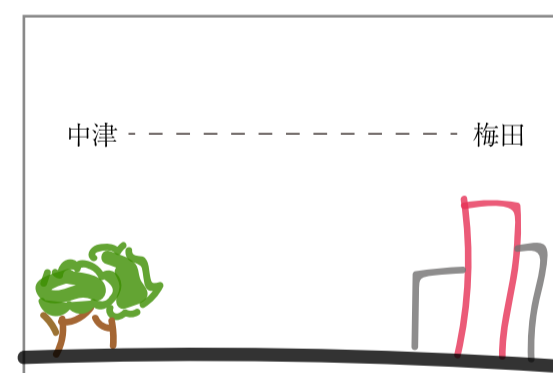


現在、中津駅から阪急梅田駅までは線路があるため、通り抜けができなくなっている。阪急梅田駅までアクセスしやすくするため、一本の道として通り抜けができるようにする。

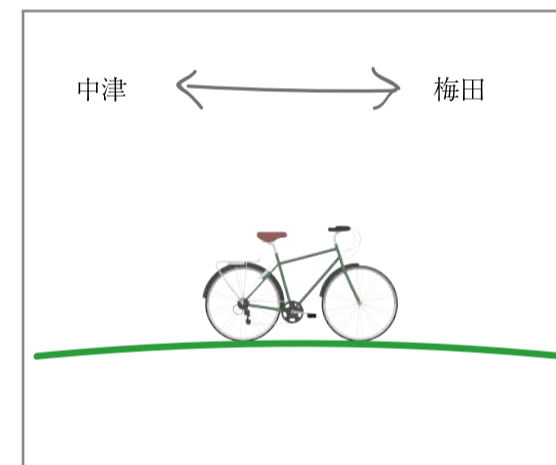
・一本の道が仮装行動を促し、自然と人の流れをつくる。



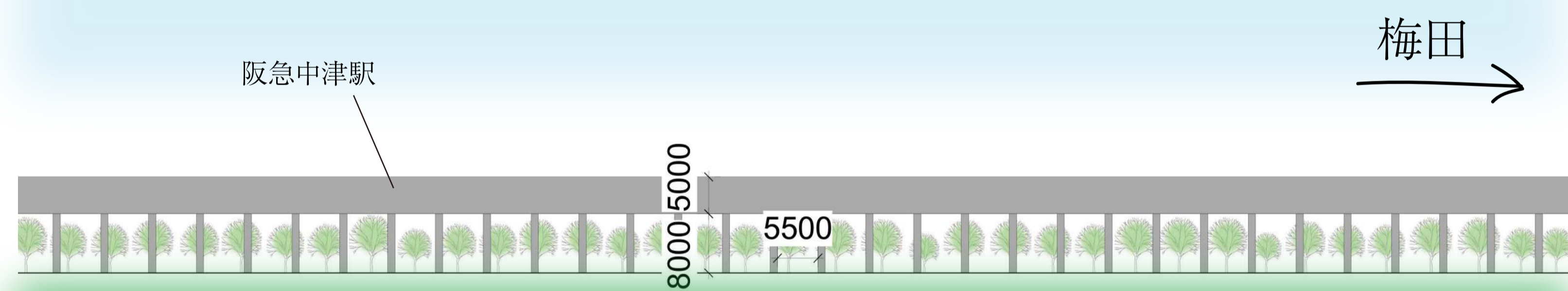
・賑やかな街の隣には自然が広がる。



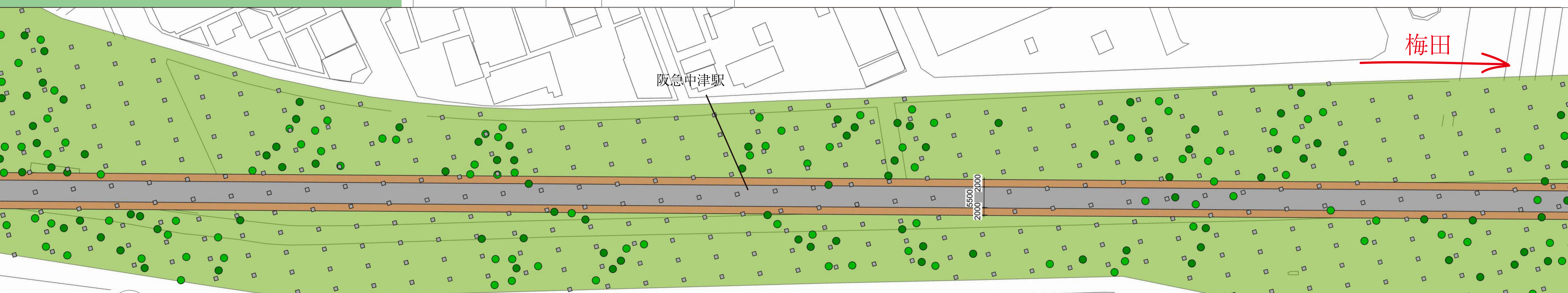
・梅田と中津を自転車で移動できる。



・子どもたちの新しい遊び場所にもなる。



断面図 S=1/500



S=1/500

